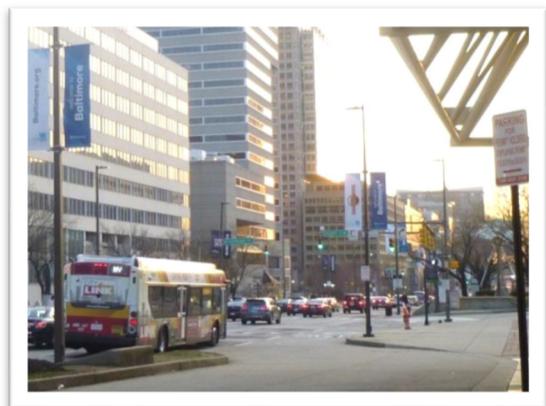


第 58 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①

－ Continuing Education Courses に参加して －

キッセイ薬品工業株式会社 安全性研究所 岸田 知行



本年度の第 58 回 SOT 学術年会 (2019 年 3 月 10 日～14 日) は、2 年前に開催された第 56 回 SOT 学術年会の開催地と同じメリーランド州ボルチモアの Baltimore Convention Center で開催されました。私は日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業の一環として、教育コースの「Role of Toxicokinetics in Human Health Safety Assessments」及び「Applications and Review of Physiologically Based Pharmacokinetic Modeling for Regulatory Risk Assessment」を受講させて頂き、念願の SOT への参加が叶いました。

ボルチモアでの初日は、氷点下を下回る冷え込みがありましたが、翌日以降は徐々に春めいて、会場近くの観光地である Inner Harbor では、散歩やジョギングを楽しむ人の姿も多く見られました。

私の受講した教育コースは両コースともにトキシコキネティクス (TK) に関連した内容でした。前者のコースでは医薬品・農薬開発における TK の役割や食品・食品添加物・汚染物質のリスク評価における TK の役割について触れられました。近年、諸資源の効率化や動物愛護の観点等から急速に発展している *in silico* アプローチは、TK 分野においても例外ではなく、生理学的薬物速度論 (Physiologically Based Pharmacokinetic Modeling, PBPK) モデル解析というかたちで、リスク評価の有用なツールとして注目されていました。後者のコースはこの PBPK モデル解析について具体的な事例を挙げて説明されました。今後、化学物質のリスク評価については、定量的構造活性相関 (QSAR) や *in vitro in vivo* extrapolation (IVIVE) の考えを組み入れた PBPK モデル解析によるアプローチがさらに発展していくようでした。



SOT 全体としては、演題内容が幅広く規模が大きいこと、US FDA や US EPA 等の規制当局からの発表が多かったこと、演者のプレゼンテーションには迫力があり、女性演者も多かったことが印象深かったです。

最後に、SOT 参加という貴重な機会を与えてくださいました日本毒性学会教育委員会の諸先生方、事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

